

平成 28 年度地域づくり海外調査研究事業調査報告書

こどもをやる気にさせる教育環境づくりから子どもの自尊感情の向上を学ぶ
～フィンランドの学校教育と環境教育～

調査地：フィンランド ヘルシンキ市

(ヘルシンキ大学ヴィーツキ教員養成学校)

調査日：平成 28 年 10 月 4 日

一般財団法人 地域活性化センター

総務企画部 クリエイティブ事業室 高木 孝二郎

目 次

1	はじめに	P. 1～P. 2
	（１）地方創生における教育の重要性	
	（２）自尊感情を育み豊かな心を育む教育	
2	那珂川町の現状	P. 2～P. 3
	（１）那珂川町の概要と沿革	
	（２）那珂川町のエ育行政	
3	ヘルシンキ大学ヴィーヅキ教員養成学校	P. 3～P. 5
	（１）学校概要について	
	（２）教員養成について	
4	フィンランドの学校教育について	P. 5～P. 7
	（１）学校教育制度について	
	（２）フィンランドの学校教育の現状	
5	まとめ	P. 7～P. 8
6	おわりに	P. 8～P. 9

1 はじめに

(1) 地方創生における教育の重要性

人口減少・超少子高齢化という課題に日本全国が直面する中、東京への人口一極集中を是正し、地方への人の流れを作るべく、全国の自治体は都市部への転出者の抑制や都市部からの移住者の獲得に向け特に子育て環境を整えることで子育て世代を呼び込み高齢化を和らげ、持続可能性のあるまちづくりを目指している。しかしながら現状は、地方の自治体同士での競争となってしまう、地方創生の本来の目的よりも、目先の数値目標にとらわれてしまっていることも否定はできない。

「まち・ひと・しごと創生本部」の発足から数年が経ち、地方創生の実現に向けて全国の自治体がそれぞれ独自の取組を推進している。地方創生のキーワードは、「まち・ひと・しごと創生本部」の名称でもある「まち・ひと・しごと」の創生であると考ええる。東京から地方への新たな人の流れを作るためには、その地域で魅力的な「しごと」を創る必要がある。また、そこで生きる人々が主体的に「まち」に関わり、まちづくりを行っていくことでその地域ならではの独自の魅力を引き出す。そのためには、「ひと」、いわゆる「人材」の育成・発掘が重要である。そのためには、外部からの人材を呼び込むとともに、自分たちの地域を自分たちで作ることのできる「ひと」を地域で育てていくための「教育」が必要である。

このような中、2020年に大学入試改革が行われ、日本の教育の在り方が大きく変わるとされている。私が特に注目している点は、子どもたちに求められる能力の変化である。今回の改革により、子どもたちには今まで以上に、思考力や判断力、表現力、主体的な探究心などの総合的な学力が求められるとされている。そういった能力を備えた子どもたちが社会に出ることで、地方に新たな「しごと」を創り、「まち」の未来を創ってくれることを期待している。

(2) 自尊感情を育み豊かな心を育む教育

地方自治体として、まちの未来を創る子どもたちが育つための土壌を構築するには、子どもたちの自尊感情を育むことが重要だと考える。

自尊感情とは、心理学用語 Self Esteem の訳語として定着した概念で、一般的には、「自己肯定感」「自己存在感」「自己効力感」等の語と、ほぼ同じ意味合いで用いられている。文部科学省の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会においては、『豊かな心をはぐくむ教育の在り方』について、「子どもたちの実情等を踏まえると、自他の生命を尊重し、学習や生活、仕事に前向きに取り組む力を育てることを特に重視する必要があるのではないか、その前提としての自尊感情（自己肯定感、自己有用感など）、社会性（人間関係を築く力、社会規範を守る態度など）を高めるため、具体的ポイントや取組の進め方などの手立てを明確にしたいが、それらについてどのように考えたらよいか」というようなことが議論されている。このことから、自尊感情が子どもたちの成長過程において重要な要素ということが分かる。

今回の地域づくり海外調査研究事業調査では、フィンランドのヘルシンキ大学ヴィーッキ教員養成学校での視察を行った。フィンランドは、経済協力開発機構（OECD）による生徒の学力調査（PISA）で長年上位を占め続けており、世界から教育の在り方が注目されている。また、世界経済フォーラム（WEF）でも長年安定して上位を続けている。フィンランドの教育の概要と学校現場の取組を学び、子どもをやる気にさせる環境づくりについて那珂川町への活用を考察したい。

2 那珂川町の現状

（1）那珂川町の概要と沿革

本町は、福岡県の西部にあって大都市福岡市の都心部からわずか 13 キロメートルのところに位置し、東部は春日市、大野城市、筑紫野市と、南部は佐賀県、北部・西部は福岡市に接している。南部は三方を背振連山に囲まれ、ここに源を発する那珂川が町の中央を南北に貫流し博多湾に注いでいる。地形は、おおむねだ円形で、南高（845 メートル）北低（15 メートル）の溪谷型をなし、南北 14.5 キロメートル、東西 6.2 キロメートル、総面積は 74.95 平方キロメートルである。

1889 年 4 月 30 日、町村制の施行によって南畑村、岩戸村、安德村の 3 村が誕生し、1898 年 4 月 1 日、この 3 村が合併して現在の那珂川町が誕生した。

那珂川町発足当時の人口は、8,948 人だったが、恵まれた自然環境や福岡市の都心部から至近の距離にあること等が手伝って、住民基本台帳（外国人登録者数を含む）上の人口は 5 万人前後を推移していたが、2015 年の国勢調査の確定値で 50,004 人に達し、2018 年 10 月に市制施行を予定している。



【注：那珂川町ホームページより】

（2）那珂川町教育行政

那珂川町教育委員会では、「地域の教育力を学校にとりこむ」を基本に、平成 22 年度から中学校区をひとつのコミュニティとして、子どもたちが安心して、明るくのびのびと生活できる地域づくりをめざしている。その核となるべき地域に開かれた学校を創造しようと、学校、地域、保護者の連携・協働により、将来のまちづくりの担い手である子どもたちを大切に育てていく仕組みづくり、すなわち、地域運営学校（コミュニティ・スクール（以下、CS と言う））の取組を推進している。このような中で、「人権を尊重し、学び、輝くまちづくり」を基本目標とし、下記 5 点を設定し教育行政を推進している。

○地域や学校における人権・同和教育と啓発の推進

○学校教育の推進

○社会教育の推進

○スポーツの推進

○文化・芸術活動の充実

この基本目標を柱に、団体との連携を深め、広く町民の理解と協力を得ながら積極的に本町教育の充実に努めている。

また、新しい教育基本法、学校教育法の理念にそった教育改革が進行している。学習指導要領においても「生きる力」を育むという基本理念のもと、基礎的・基本的知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならないとされている。

那珂川町では、町内7つの小学校と3つの中学校全てでCSを推進しており、各小中学校独自に、CSの活動目標と学校の重点目標、具体的な方策を掲げている。さらには、中学校ブロック単位を拡大CSとし、小学校・中学校の9年間で子どもたちの豊かな学びを育むための取組を進めている。



【写真：那珂川町立岩戸小学校（左）と南畑小学校の様子（右）】

3 ヘルシンキ大学ヴィーッキ教員養成学校

(1) 学校概要について

ヘルシンキ大学ヴィーッキ教員養成学校は、1869年に女子校として設立し、1969年に男女共学となった。当時は、ヴィーッキ地区とは異なる地区に設置されていた。1974年からは、ヘルシンキ大学の教員養成課程の一環として、教育実習生の指導を行うようになったが、こういった学校教育と教員養成を併せ行う教育実習校は、フィンランドに11校あり、この11校は、ネットワークを形成し、情報の共有などを行って



【写真：学校の様子】

いる。2003 年に、大学機能を集中させるために、またヘルシンキ市がヴィーッキ地区を住宅地として開発していたため、大学側と市側の利害関係が一致し、ヴィーッキ地区に移転した。

ヴィーッキ教員養成学校は、学習と「連携」のための安全で質の高い優れた環境を提供することを理念として掲げている。ここでいう「連携」とは、生徒間、教員同士、校長先生と教員、家庭と学校など全ての関係性を指している。教育省の指示により、大学内での指導方法や教員養成等のカリキュラムの開発・改善を行う役割を担っており、その関係で2016 年 8 月の新しい国のコアカリキュラム制定に当たっては、8 人の教員が取組に参画し



ている。

【写真：学校周辺ヴィーッキ地区の様子】

この学校では、初等教育、前期・後期中等教育課程の学校教育を行っており、7 歳～19 歳までの子どもたちが同じキャンパス内で学んでいる。初等教育は、403 人の生徒と 18 人のクラス担任、8 人の科目教員、前期中等教育は、282 人の生徒と 64 人の科目教員、後期中等教育は、254 人の生徒と 64 人の科目教員が在籍している。



【写真： 中学の校長先生（左）と視察を対応していただいた先生（右）】

（2）教員養成について

ヴィーッキ教員養成学校では、クラス担任が子どもたちの指導と合わせて、教育実習生の指導を行っている。年間を通してクラス担任を目指す学生を約 150 人、科目教員を目指す学生を約 200 人受け入れている。そのため、年間を通して、教育実習生が学校内にいるという。教育実習生は、授業の前に担当教員から 1 時間指導を受けて授業に臨み、授業後にも反省会を行う。放課後には教育実習生同士でミーティングを行い、授業の反省や教育論などを語り合う機会を持っている。

教育実習では、授業の指導だけではなく、授業以外の業務やカリキュラムの設定、いじめ対策、生徒のケア、家庭との連携、学校経営、生徒指導、図書館、生徒一人ひとりへの対応、学習障害への対応、発声、著作権に関すること、ICT の活用など多様な指導を受けている。



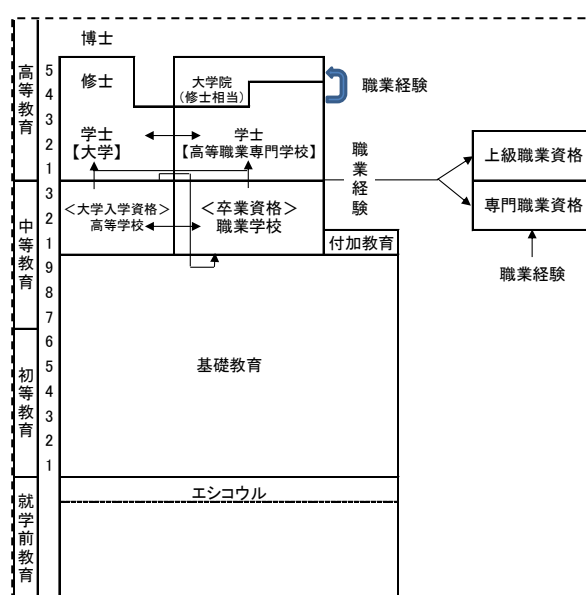
【写真：教育実習生による授業の様子】

4 フィンランドの学校教育について

(1) 学校教育制度について

フィンランドの学校教育制度は、教育の機会均等と平等をめざす教育制度である。そのため、就学前教育から高等教育まで一貫した無償の原則があり、授業料や教科書などの教材及び通学にかかる交通費が無償、医療費の免除など、学校制度そのものだけでなく、それをサポートする周辺的な基盤も整備されている。

フィンランドの義務教育は初等教育と前期中等教育の基礎教育といわれる 9 年間で、日本の小学校・中学校にあたる。基礎教育は学区が決まっており、ヴィーッキ教員養成学校でいうと、ヴィーッキ



【図：フィンランドの学校教育制度】

地区に住む人々はこの学校に通うことができる。後期中等教育は3年間で、日本の高等学校にあたり、高等教育は、日本の大学に相当する。義務教育を終えると、大学進学を目指す高等学校と職業系の学校におおよそ半々に分かれる。職業学校では、資格をとるために学び、卒業後就職するものもいれば、より高度な職種の資格を取得するために、専門学校へと進学するものもいる。

高等学校への進学は、受験は無いが基礎教育時の評点によって決まってくる。高等学校ごとに評点の基準があるわけではないが、応募者が集中した際は評点によって進学できるか否かが決まってくる。評点は、4～10までであり、8が良となっているが、ヴィーッキ教員養成学校の高等学校は評点平均が9.43で、高レベルの生徒が集まってくる国内でも有数の学校のようなのだ。

また、学校の教員になるためには、修士号を取得する必要がある。科目教員は自分自身が教えたい分野の学部・学科に入学し、それに加えて教員になるためのコースを履修することとなる。クラス担任の教員は、教育学部に入学し、期間は5年間で、毎年教育実習を受けている。フィンランドでは、日本のような自治体採用試験はなく、教職課程を修了して入れば、地域に関係なく自由に学校に就職できる。

(2) フィンランドの学校教育の現状

フィンランドでは、国が制定したコアカリキュラムはあるものの、地方自治体の決定に基づき、実質的には個々の学校がカリキュラムを編成し、個々の教師が教育方法を決めている。教科書検定も廃止し、学校ごとに教科書が選べるようになっている。フィンランドでは、教科書を使って授業をすることはあっても、教科書を教えようとはしない。教科書に書いてあることを教えることが教師の役目ではないとされているためである。ヴィーッキ教員養成学校でヒアリングした中には、自分で教科書を作成したと自慢げに話してくれる先生もいたほどだ。各学校での自由度を高めることで、子ども一人ひとりに合わせた教育を行っている。

授業は、子どもたちが主体的に学ぶように、身の回りのことと関連付けながら行うことが多い。視察したヴィーッキ教員養成学校でもそうであったが、フィンランドでは授業で良く森に出かけるという。このことをきっかけとして、森へ安全に出かける方法、観察に必要な道具、道路や交通標識などを学んでいく。自分達が五感を使って感じたものに疑問を投げかけ、問いかけ、学ぶことで自分なりの問題意識を生み、そして探究心を深めて、主体的な学びにつながっていくのである。その学びの成果として、教室には子どもたちの作品が数多く飾られていた。

このように、フィンランドでは子どもたちが主体

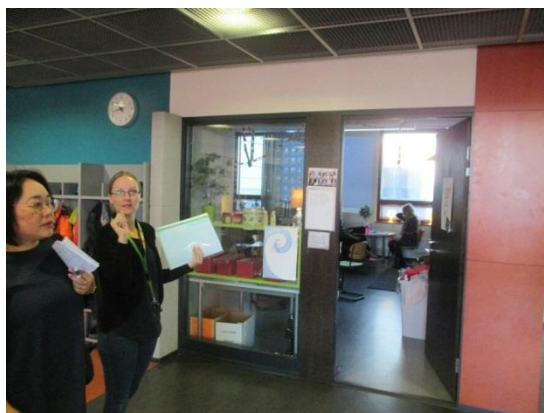


【写真：教室の様子】

的に考える授業が行われている。多くの授業では、始めに先生が課題を説明し、一斉授業を10分程度で切り上げ、個人作業に入る。個人作業をすると、一人ひとり進捗状況が異なることがよくあるが、それも個性として認められている。その日の課題を終えると、他の本を読むなど、他人の邪魔をしない限り何をしようとも自由のようだ。学びたい、知りたいという子どもの意欲が大切にされている。

視察を対応してくれた先生もしきりにその子自身が何を学びたいか、何を知りたいかということを大切にしていると語ってくれた。教科書に書いてあることや教師が教えることを全てとして捉えるのではなく、子どもたちが自分自身で探求心を持って学ぶことが重要であることを考えさせられた。

テストは、中学校まではほとんど実施されていないようだ。先生によっては授業中に小テストをすることもあるが、点数はつけない。生徒一人ひとりをじっくり教えられれば、テストをしなくとも到達度が把握できるということだ。生徒の疑問にはその場で対処することが肝心で、生徒が学べるようにしておくことが、教育環境の意義だといわれている。



【写真：学校内視察の様子】

5 まとめ

本調査における、フィンランドの教育を以下のとおり整理した。

① 教育機会の平等

フィンランドでは高負担・高福祉の考え方を準じて教育の無償化がなされているが、これと同じことを、日本ないし地方自治体によって保証することは難しい。しかしながら、今回の調査において分かったことは、家計の状況に左右されないところでの子どもたち一人ひとりの学力保障である。

授業中も生徒一人ひとりの学びに合わせた指導方法を行うことで、子どもたちの基礎学力を把握し、全体を底上げしている。フィンランドの学力調査の結果は、できる子が多いわけではなくできない子を伸ばすことによって実現されていることが分かった。



【写真：ヒアリングの様子】

② 教員の自信と誇り

全ての教員が修士号を取得していることを背景に、一人ひとりが教員であることに自信

と誇りを持っていることが調査から感じられた。それは、学術的な学びだけではなく、充実した教育実習による効果も大きいと考える。授業の進め方だけでなく、学校経営や家庭との関係などについて現場で学ぶことができている。そういった教員養成の基盤があるからこそ、学校独自の自由度の高いカリキュラム設定であっても、高い学力水準の維持という成果が上がっていると考えられる。

③多様性から学び育つ学校環境

基礎教育は学区制となっていることから、様々な家庭環境の子ども達が通学している。宗教や文化、親の収入など一人ひとり異なっている。今回の調査では、そういった背景を持った子ども達と教員が接することで、教員の学びとなっているということが分かった。さらに、子ども達の学習意欲について質問した際に、学習意欲の高い子どもは恵まれた家庭環境にある子が多いが、移民の子ども達でも、学習意欲が高い傾向にあるということも語っていた。



【写真：食堂の様子。ベジタリアン専用の食事も提供】

④競争を促さない

テストをほとんど実施せず競争を促さない仕組みであるが、私が注目したのは、他人と比べず、子ども一人ひとりの学びたいという意欲を大切にしているという点である。なぜ学ぶのかということを子ども達が自分自身で考える環境を整えることで、自分自身で学ぶべきことを選択することができる子どもが育っていると感じた。

6 おわりに

フィンランドでは、子ども達の主体性を最優先に考えた平等の教育がなされていることが分かった。那珂川町においても、こういった子どもたちの主体性を引き出すことで、子ども達がやる気を持ち自尊感情を向上させることができると考える。

那珂川町においては、全ての小・中学校においてCSが展開されている。そこでまずは、CSにおいて、学校と子ども達、教員の現状を把握することが必要と考える。

それは、教員が子ども達一人ひとりにどれだけ寄り添っているのかを知るためである。その現状から、地域でできることと学校でできることの役割を明確にし、子ども達一人ひとりにかける時間と人を増やすことが必要である。



【写真：親講座の様子】

さらに、子ども達が身の回りで主体的に学ぶことができる環境を整えることが重要であ

る。フィンランドで、よく森に出かけて子ども達が学んでいるように、身の回りにはたくさんさんの教材が溢れている。それらの環境教育の場を整備することによって、身近なものが教材となり、自分事として子ども達が学べるようになる。

フィンランドの教育制度をそのまま取り入れようとするのではなく、考え方を学校・家庭・地域に溶け込ませることで、主体的で、自分自身を尊重し、やる気あふれる子ども達が育つ教育環境を地域全体として作ることができると感じた。学校での教育にだけ依存するのではなく、地域として、家庭として、一個人として子ども達の主体性を育むための関わりが必要であることを学んだ。



【参考文献・資料】

- ・『「自尊感情」？ それとも、「自己有用感」？』

／文部科学省国立教育政策研究所、編集：生徒指導・進路指導研究センター

<http://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf18.pdf>

- ・『フィンランド豊かさのメソッド』／著：堀内都喜子 出版：集英社新書
- ・『こうすれば日本も学力世界一』／著：福田誠治 出版：朝日新聞出版
- ・『揺れる世界の学力マップ』／編著：佐藤学、澤野由紀子、北村友人 出版：明石書店